

DOWAS NEWS

2012

Vol15 No.1



DSW 縁の下の力持ち (5) ～深層水を支える人々～

株式会社 DHC 海洋深層水研究所編

山田 勝久 (株式会社 DHC 海洋深層水研究所) … 1

海洋深層水利用学会 2012 年度定期総会報告

海洋深層水利用学会事務局 … 2

海洋深層水利用学会 2011 年度理事会報告

海洋深層水利用学会事務局 … 8



海洋深層水利用学会

DSW 縁の下の力持ち⑤ ～海洋深層水を支える人々

株式会社 DHC 海洋深層水研究所編

山田 勝久（株式会社 DHC 海洋深層水研究所）

美と健康をテーマにした事業展開を進める弊社では、2007 年より静岡県伊東市の赤沢沖 5km の水深 800m から日本で一番深い海洋深層水を一番新しい施設で取水しています。取水した水については、まずは地域活性化のために伊豆半島はもちろん、三浦半島や東京、北関東の利用者に至るまで全国に幅広く供給させて頂いており、「伊豆赤沢海洋深層水」として親しまれるようになりました。

また弊社内でも各種製品への応用研究を活発に行い、既に飲料水や健康飲料として発売した商品をはじめ（当学会ホームページの団体会員の紹介ページを参照下さい）、近日また新たに発売される予定の商品等続々と研究開発が進んでいますので、これらが皆さまのお手元に届く日も近いのではと存じます。さらにこれら弊社の商品開発に際して知得した海洋深層水に関する科学的知見等については学会報告のほか、地元の利用者が加入する伊豆海洋深層水利用組合主催の「海洋深層水勉強会」において報告し、伊豆赤沢海洋深層水利用者の方々に広くご参照頂いております。

さて取水地の伊豆赤沢には、海洋深層水の取水事業から遡ること 7 年前の 2001 年に「赤沢温泉ホテ

ル」の営業を開始し、その後 2003 年には「赤沢日帰り温泉館」や食事処の「赤沢亭」を開設。このように地元密着型の事業展開を推進し、今日伊豆赤沢海洋深層水取水事業を柱とした「赤沢スパ」および「赤沢迎賓館」のオープンへと発展しています。おかげさまでこれら一連の事業展開は、「ヘルスツーリズム」の先駆けとして海外からも注目を浴びるようになりました。

ところで本稿の題名の「DSW の縁の下の力持ち」ですが、残念ながら伊豆赤沢海洋深層水にはそのように呼べる対象が見当たりません。上述のとおり伊豆赤沢海洋深層水の事業は地元の海洋深層水利用者をはじめ、観光で訪れる一般の利用者の皆さまと取水事業者である弊社が互いの理解と協力によってこれまで発展して参りました。また今後もその形で進んで行くことが伊豆赤沢海洋深層水の理想的な姿ではないかと考えております。

最後になりましたが、弊社は海洋深層水取水事業者として一番の新参者です。各地で取水事業をされている諸先輩方の皆さまには今後とも末永くご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



赤沢の海



飲料水製造風景

海洋深層水利用学会 2012 年度定期総会報告（事務局）

【総会概要】

日時：2012 年 5 月 11 日（金）15：00～15：40

場所：東京大学 弥生キャンパス

中島董一郎記念ホール

【配布資料】

海洋深層水利用学会 2012 年度定期総会議案書

【報告】

1. 2012 - 2013 年度理事選挙結果ならびに役員選出結果が報告された。

会 長：高橋正征

副会長：深見公雄

会計監査：津嶋貴弘（団体会員枠・高知県）

研究発表企画委員会委員長：清水勝公

同副委員長：大内一之

ニュースレター編集委員会委員長：池上康之

ホームページ編集委員会委員長：尾高義夫

論文誌編集委員会委員長：井関和夫

事務局長：大塚耕司

理 事：明田定満

理 事：藤田大介

理 事：白石 學（団体会員枠・一般社

団法人マリノフォーラム 21）

理 事：山本隆司（団体会員枠・沖縄県）

理 事：佐藤建明（団体会員枠・富山県）

理 事：今田千秋

2. 利用促進委員会の発足と役員選出結果が報告された

委員長：大塚耕司

副委員長：山田勝久

顧問：松里壽彦

3. 2013 年度第 17 回全国大会は台湾国内で開催されることに決定した。

【議事】

1. 2011 年度事業報告、監査報告が承認された。

2. 2012 年度事業計画、予算が承認された。

3. その他報告として、名誉会員規約の作成、2013 年度第 17 大会に向けて大会委員長候補者の林志善氏から届いた歓迎文書が紹介された。

1. 2011 年度事業報告

(1) 定期総会および理事会

①2011 年度定期総会

開催日：2011 年 6 月 3 日（金）

場 所：大阪府立大学中百舌鳥キャンパス

学術交流会館 多目的ホール

②2011 年度理事会

2011 年度中に 7 回の理事会を開催。

(2) 研究発表会

第 15 回海洋深層水利用学会全国大会 2011 伊豆大会～海洋深層水と生きる、新しい日本へ～

開催日：2011 年 11 月 17 日（木）～18（金）

研究発表数：5 セッション 28 題

参加者：150 名

（会員：83 名、非会員：47 名、学生：20 名）

(3) 論文誌

①海洋深層水研究 第 12 巻 第 1 号

発行年月：2011 年 9 月（原著論文 2 編、講演録 5 編+NL）

②海洋深層水研究第 12 巻 第 2 号

発行年月：2011 年 10 月

発行部数：450 部

③編集委員長の交代準備

・藤田 大介理事（東京海洋大学）から井関 和夫理事（広島大学）に引き継ぎを開始

・バックナンバーをすべて事務局に集約し、アーカイブ化を考慮し、各号 20 部ずつ保管。

(4) ニュースレター

①Vol. 14, No. 1（2011 年 9 月発行）

・「第 14 回海洋深層水利用学会全国大会報告」（山本 隆司 沖縄県海洋深層水研究所・海洋深層水 2010 久米島大会実行委員会委員長）

・「海洋深層水利用学会 2011 年度定期総会報告」（海洋深層水利用学会事務局）

※論文誌「海洋深層水研究第12巻第1号」の後頁に記載

【注：「海洋深層水研究第11巻第1号」に掲載
漏れのニューズレターVol. 13, No. 1・シリーズ「DSW 縁の下の力持ち④～深層水を支える人々～」富山県海洋深層水編 松村 航（富山県農林水産総合技術センター 水産研究所）を38頁に掲載】

②Vol. 14, No. 2 (2012年3月発行)

- ・「第15回海洋深層水利用学会全国大会報告」（山田 勝久 DHC 海洋深層水研究所・海洋深層水2011伊豆大会実行委員会委員長）
- ・「海洋深層水利用学会2011年度第2～5回理事会報告」（海洋深層水利用学会事務局）

(5) ホームページ

① 既存ページの更新

- ・総会・理事会開催案内および報告、活動内容報告
- ・発行物の掲載・案内：ニューズレター（Vol. 14, No. 1・Vol. 14, No. 2）、論文誌目次（第12巻第1号・第12巻第2号）
- ・論文誌ページ：投稿規定・投稿の手引き改訂版、投稿原稿サンプルの掲載
- ・新規メニュー（[研究発表会] ページ）の追加
 - i) 開催案内・報告
 - ii) 研究発表会履歴…開催地、開催日、プログラム、案内※・報告※を掲載
（※一部大会のみ）
- ・[学会について] ページ内に提言掲載
提言『放射性物質の海域流出による海洋深層水への影響について』
- ・その他：学会協賛セミナー案内の掲載

② アドレス登録会員へのメール配信：計13件
（全国大会案内3件含）

- ・学会からの案内・お知らせ、ホームページ更新情報等：8件（メールニュース（No.20～23）、定期総会・全国大会案内）
- ・他機関からのお知らせ（学会協賛セミナー、フォーラム案内等）：5件

③ 全国大会案内の掲載、メール配信、WEB 上で

の申込み受付

(6) 事務局

〔1〕 クレジット支払サービスの開始

- ・外国籍会員の会費支払をスムーズに行うため、りそなカード株式会社と契約し、必要事項記入のための NOTIFICATION FORM を作成
→ 団体会員1件 個人会員7名に郵送
- ・取扱いカードは VISA、Master Card、JCB のみ
- ・現在2名の個人会員から番号通知があり、今月15日に手数料（5%）を差し引いた9,500円が学会口座に振り込まれる予定

議案書 4

(8)2011 年度決算報告

【一般会計】

2011 年度一般会計収支報告書

単位 (円)

	予算	決算	差額		
収入の部					
会費収入					
個人会費収入	5,000 * 147	735,000	5,000 * 136	680,000	-55,000
学生会費収入	2,500 * 4	10,000	2,500 * 5	12,500	2,500
団体会費収入	50,000 * 46	2,300,000	50,000 * 44	2,200,000	-100,000
未納会費回収					
個人会費収入	5,000 * 11	55,000	5,000 * 4	20,000	-35,000
学生会費収入	2,500 * 0	0	2,500 * 0	0	0
団体会費収入	50,000 * 0	0	50,000 * 0	0	0
その他の収入					
雑収入		0		6,750	6,750
総会懇親会参加費	3,000 * 0	0	3,000 * 0	0	0
論文誌売上費		0		8,660	8,660
利息		0		1,038	1,038
当期収入合計 (A)	3,100,000	2,928,948	-171,052		
前年度繰越金	3,939,986	3,939,986	0		
収入合計 (B)	7,039,986	6,868,934	-171,052		
支出の部					
事業費					
総会	30,000	13,800	16,200		
研究発表企画委員会	500,000	142,095	357,905		
論文誌編集委員会	1,200,000	586,297	613,703		
HP/NL 編集委員会	440,000	331,380	108,620		
20 周年記念事業積立金	300,000	300,000	0		
理事選挙管理委員会	0	34,380	-34,380		
事務局経費					
委託費	1,200,000	1,200,000	0		
消耗品費	} 200,000	144,149	} -24,789		
通信運搬費		35,160			
旅費		27,080			
その他事務経費		18,400			
当期支出合計 (C)	3,870,000	2,832,741	1,037,259		
当期収支差額 (A) - (C)		96,207			
次年度繰越金 (B) - (C)		4,036,193			

【特別会計】(20周年記念事業積立金)

・今年度で30万円計上を終了する。

【学会賞等基金】(前会長寄付金による)

2011年度 特別会計 収支報告書

単位(円)

	予算	決算
収入の部		
20周年記念事業積立金	300,000	300,000
利息	0	152
当期収入合計	300,000	300,152
前年度繰越金	900,612	900,612
収入合計	1,200,612	1,200,764

2011年度 学会賞等基金 会計収支報告書

単位(円)

	予算	決算
収入の部		
会長基金	0	0
利息	0	24
当期収入合計	0	24
前年度繰越金	140,018	140,018
収入合計	0	140,042

議案書 5

(9)2011年度監査報告

2011年度会計監査報告書

2012年3月2日

海洋深層水利用学会
会長 高橋 正征 様

会計監査

津嶋 貴弘 

海洋深層水利用学会の2011年度における会計監査を実施した結果を、下記の通り報告いたします。

記

1. 監査期間
自 2011年4月1日 至 2012年3月31日
 2. 関係書類の整備状況
適切に整理・保存されている。
 3. 現金・預金出納簿の出納内容のチェック
関係証拠書類と対査の結果、適正である。
 4. 現金・預金残高の正確性
出納簿の残高と実際有高を参照の結果、帳簿残高と実際残高は一致している。
- (以下余白)

2. 2012 年度事業計画

(1) 総会および理事会

①2012 年度定期総会

開催日：2012 年 5 月 11 日（金）

場 所：東京大学 中島董一郎記念ホール

議 題：2012 - 2013 年度理事選挙結果報告

2011 年度事業報告

2011 年度決算報告

2011 年度監査報告

2012 年度事業計画

2012 年度予算 その他

②講演会：

「環境遺伝子資源利用への挑戦」

竹山 春子氏（早稲田大学）

「ゲノム情報で海を探る～メタゲノム解析による海洋生物の多様性と環境評価～」

長井 敏氏（(独)水産総合研究センター）

③2012 年度理事会

第 1 回理事会・第 2 回理事会

開催日：2012 年 5 月 11 日（金）13 時～

場 所：東京大学中島董一郎記念ホール

ほかメール審議を含め 5 回程度開催の予定

(2) 研究発表会

①第 16 回海洋深層水利用学会全国大会

海洋深層水 2012 伊豆大島大会

開催予定日：2012 年 11 月

開催場所：東京都大島町

開催内容：未定

(3) 論文誌

①「海洋深層水研究」第 13 巻第 1 号・

2 号・3 号の発行

印刷部数：各 400 部程度

※第 2 号については全国大会要旨集

②編集委員長と編集委員の交代

委員長：藤田大介氏→井関和夫氏

編集委員：12 名の新メンバーで構成

詳細は第 13 巻第 1 号の奥付に掲載

(4) ニュースレター

・Vol. 15, No. 1～4 発行（2012 年 6 月・9 月・12

月および 2013 年 3 月）

・内容：ニュースレター・特集・シリーズ「DSW
～縁の下の力持ち」・報告等

(5) ホームページ

①情報発信

・ニュースレターの掲載 … ニュースレター
編集委員会提供の原稿をアップ・発行物の掲載・案内：ニュースレター、論
文誌目次・各会案内・報告の掲載：事務局・各委員会
提供の原稿をアップ（定期総会、理事会、全国
大会）

・会員からの情報提供

②メールニュースの配信

③全国大会（研究発表会）の案内、ホームペー
ジからの申し込み

④既存ページの更新・追加 他

・書籍紹介、団体会員紹介の継続募集

・その他（研究会活動報告、新パスワードの
発行等）

(6) 産業情報交換会〈新規事業〉

・昨年度の伊豆大会会場にて行われた「全国海洋
深層水利用者懇話会」と同様の情報交換活動を
企画・開催する(7) 会則第 7 条第 2 項により以下の 2 名を除名処分
とする

・柴沼 成一郎

・高野 達也

(8)2012 年度予算

2012 年度一般会計予算案

単位 (円)

収入の部		
会費収入		
個人会費収入	5,000 * 150	750,000
学生会費収入	2,500 * 3	7,500
団体会費収入	50,000 * 45	2,250,000
未納会費回収		
個人会費収入	5,000 * 16	80,000
学生会費収入	2,500 * 0	0
団体会費収入	50,000 * 1	50,000
当期収入合計	(A)	3,137,500
【2011 年度繰越金】		4,036,193
収入合計	(B)	7,173,693
支出の部		
事業費		
総会		100,000
研究発表企画委員会		500,000
論文誌編集委員会		1,200,000
HP/NL 編集委員会		400,000
選挙管理委員会		40,000
事務局経費		
委託費		1,200,000
その他事務経費		200,000
当期支出合計	(C)	3,640,000
次年度繰越金 (B) - (C)		3,533,693
支出合計		7,173,693
当期収支差額 (A) - (C)		- 502,500

海洋深層水利用学会 2011 年度理事会報告（事務局）

【海洋深層水利用学会 2011 年度第 2 回理事会】

(メール審議)

発信日：2011 年 9 月 1 日（木）

議題：入会に関するメール理事会

審議内容：2011 年 8 月度に申込みの入退会希望者について理事会での承認を求めた

審議結果：異議なく了承され本人に文書で回答した

【海洋深層水利用学会 2011 年度第 3 回理事会】

発信日：2011 年 9 月 30 日（金）

議題：入会に関するメール理事会

審議内容：2011 年 9 月度に申込みの入退会希望者について理事会での承認を求めた

審議結果：異議なく了承され本人に文書で回答した

【海洋深層水利用学会 2011 年度第 4 回理事会】

発信日：2011 年 11 月 1 日（火）

議題：入会に関するメール理事会

審議内容：2011 年 10 月度に申込みの入退会希望者について理事会での承認を求めた

審議結果：異議なく了承され本人に文書で回答した

【海洋深層水利用学会 2011 年度第 5 回理事会】

日時：2011 年 11 月 17 日（木）

場所：伊東商工会議所 3 階中会議室

配布資料：

資料 1 研究発表企画委員会報告

資料 2 論文誌編集委員会報告／

委員長交代について

資料 3 ニュースレター編集委員会報告

資料 4 ホームページ編集委員会報告

資料 5 放射性物質の海域流出による

海洋深層水への影響について

資料 6 会員の動向

添付 台湾石材・資源産業研究発展センター

林志善総経理からの要請書

議事：

1. 研究発表企画委員会より

研究発表企画委員長・清水理事より資料 1 に基づき説明があった。

■本日開催の第 15 回全国大会について

・応募が 154 名あった。予想の 90 名を上回っており、会場が満杯に近い状態になっている。

■来年度の第 16 回全国大会について

・既に決定している通り、伊豆大島での開催になる。本日、東京大学の太田教授(本学会理事)のとり計らいにより、大島町副町長の原田浩氏に懇親会への臨席を頂き挨拶を頂く予定である。

■再来年度の第 17 回全国大会誘致について

・候補が絞れていない状況であるが、①青森県深浦町 ②台湾 ③国内の大学 の 3 か所を検討中である。2012 年度の総会までには理事間で審議のうえ決めたいと考えている。

2. 論文誌編集委員会より

論文誌編集委員長・藤田理事より資料 2 に基づき説明があった。

■第 12 巻第 1 号について

・表紙を一新しカラー刷りに変え、9 月に発行した。

■第 12 巻第 2 号について

・要旨集特別号なので編集には携わらなかったが、2 段書きを整えるようにした方が良かったように思う。奥付の Vol.12. No.2 となっている。(正しくは Vol.12 No.2)

■第 12 巻第 3 号について

・今大会の中から論文を募り編集していきたいと考えている。

■論文誌編集委員会の位置づけについて

・「海洋深層水研究」はニュースレターなども含み論文だけではないので、今後は論文誌ではなく「学会誌」と呼ぶ。ただし、ニュースレター編集委員会・論文誌編集委員会が個々に存在するので「論文誌編集委員会」の名前はそのまましておく。

3. ニュースレター編集委員会より

ニュースレター編集委員長代理・大塚理事より

資料3に基づき説明があった。

■Vol.14 No.1について

・学会誌の第12巻第1号の掲載になって発行された。

■Vol.14 No.2について

・学会誌第12巻第2号の掲載に間に合わなかった
ので年内12月には発行したい。

■Vol.14 No.3について

・内容は未定であるが発行は年度内2012年の3月に予定している。

4. ホームページ編集委員会より

ホームページ編集委員長代理・大久保氏より資料4に基づき説明があった。

・主な更新内容は、研究発表会の新規メニューの追加であった。

・間もなくニューズレターVol.14No.1の掲載と学会誌第12巻第1号の目次の掲載をアップできる見込みである。

5. 論文誌編集委員会委員長交代について

高橋会長より提案があった。

・現在の藤田委員長が約6年半務めているために、この辺で交代していただくことと、新編集委員長を井関理事にお願いしたい。学会誌は発刊時期が年度ではなく、年になるので2012年1月から任に当たっていただきたい。

また、これまで編集委員長の任期が決められていなかったもので、今後は1期2年を目安にしていくことが望ましいと考えている。

→異議なく了承され、次期2012年度総会で正式交代を報告することになった。

尚、編集業務が円滑に進むように12月から交代事務引き継ぎを徐々に進めていく。

6. 2012年度の理事選挙について

大塚事務局長から報告があった。

・2010年度の理事選挙の選挙管理委員会委員は、下村氏・真鍋氏・池田氏であった。

下村氏は退任の意向を示されているので、新任の依頼については高橋会長、松里副会長と相談して決めたい。

7. 放射性物質の海域流出による海洋深層水への

影響について

大塚事務局長より、資料5に基づき説明があった。

・今年度の総会において取り上げられた放射性物質流出の風評被害について、声明文を作成したので、学会名で発信したいと思うがこの文章でよいか。

→事故に対して「遺憾である」という強い表現を使用し、厳しい文章ではっきり言い切るなどの推敲を加えて発表することになった。今大会では、大会終了時の松里副会長の挨拶で参加者に説明することになった。

8. 2013年度第17回全国大会について

台湾石材・資源産業研究発展センターの林志善総経理からの公式申し入れ文書の紹介とともに高橋会長より説明があった。

→協議の結果、2013年度の候補地として台湾を第一候補にして、今後問題点などを理事会で検討・決定し、2012年度の総会に諮ることになった。

以上